

令和 6 年度学校経営計画表

1 学校の現況

学校番号	特 14			学校名	茨城県立鹿島特別支援学校										学校長名		石上 智子			
教頭名	佐藤 政雄			教頭名	沖 憲一郎			教頭名	三橋 秀彰			事務長名		廣瀬 陽子						
教職員数	主幹教諭	1	教諭	104	養護教諭	2	栄養教諭	1	常勤講師	51	非常勤講師	9	実習助手	2	事務職員	3	技術職員等	17	計	190
児童・生徒数	部	1 年		2 年		3 年		4 年		5 年		6 年		合計		合計 クラス数				
		男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女					
	小学部	24	5	15	10	19	11	11	4	21	7	23	8	113	45	35				
	中学部	24	7	19	12	22	13							65	32	23				
	高等部	19	9	42	11	18	16							79	36	20				
	計														257	113	78			

2 目指す学校像

- ◆元気に楽しく学べる学校
- ◆一人一人がよさを発揮できる学校
- ◆保護者、地域とともにある学校

3 現状分析と課題（数量的な分析を含む）

項 目	現 状 分 析	課 題
学校経営	・児童生徒の安全確保と校内の整理・整頓、環境美化に向け、定期的な安全点検による破損や危険箇所の早期発見・修繕を徹底している。 ・非常食試食体験、全児童生徒引き渡し訓練、荒天時の避難、外部講師による研修の実施により、防災に対する知識・理解を深めている。 ・研修会や講習会の実施、感染症予防アナウンスによる保健・安全指導を徹底している。 ・保護者向け給食体験による「食」に対する理解推進、職員間の積極的な情報共有による事故の未然防止に努めている。 ・スクールバス置き去り防止安全装置の導入と運行マニュアルの見直しによる安全な通学指導を徹底している。	・定期点検以外での発見・報告の遅延 ・様々な想定での災害時避難訓練や対応訓練の継続実施 ・ヒヤリハット事例や事故報告など共通理解の場の設定と工夫 ・給給食体験の保護者参加率アップ ・スクールバス内の課題対応に係る号車担当者間の認識や対応方法の共通理解

	・校則の見直し、いじめ早期対策チェックリストや長期欠席児童生徒把握シートの活用による課題の共通理解と早期対応に努めている。 ・全体研修や各部ボトムアップ研修、「意識していこう」キャンペーンの実施による一人一人の意識の高揚を図っている。 ・退勤時間や定時退勤日の遵守を呼びかけるとともに、個別面談期間の下校時間を見直し、職員の多忙感の軽減を図っている。 ・出向相談、来校相談、体験学習による各種学校への相談支援、校内児童生徒への相談支援・支援会議の実施、小中学校のコーディネーターへの情報発信によるセンター的機能の強化を図っている。 ・交流及び共同学習の回数や内容の充実、学校運営協議会による地域との連携を図っている。 ・新たな取組、企画の工夫による学校公開の実施、ホームページでの積極的情報発信を行っている。	・生徒指導部と各部の連携による課題の把握と情報共有 ・当事者意識の醸成 ・各自のタイムマネジメントの見直し ・件数増加に伴う対応時間の確保、学校業務・行事等との調整 ・相互理解の推進 ・地域の本校への理解推進
学習指導	・三つの柱に基づく年間指導計画の見直しと各部の教育課程改善を行っている。 ・自立活動の研修会を実施、中心課題や流れ図の作成を通して、指導形態について理解を深めている。 ・体育的行事や大会、作品応募への積極的な参加を通して、児童生徒が役割を担う場や活躍の場の設定など体験活動の工夫や思いや考えを伝え合う話し合い活動の工夫を行っている。 ・一人一授業研や計画訪問を通して、三つ指標での目標・評価を設定した授業展開を行っている。 ・効果的な研修によるＩＣＴ機器の活用を進めている。	・年間指導計画と個別の指導計画との関連性 ・流れ図を簡略化する等の様式検討、事例集作成 ・キャリアパスポートの活用による児童生徒の内面の評価 ・単元計画の妥当性の検討、授業の質の向上 ・ニーズや活用法の習熟に応じた研修の推進

4 中期的目標

- 1 児童生徒一人一人の学びを大切にし、よさを認め、伸ばす教育活動を推進する。
- 2 生涯を通じて活力ある生活を送るための基礎となる、豊かな心、健やかな体を育む教育の充実に努める。
- 3 保護者、地域とともにある学校づくりに努め、地域におけるセンター的機能を推進する。
- 4 働き方改革を推進し、教職員が働きがいのある学校づくりに努める。

5 本年度の重点目標

重 点 項 目	重 点 目 標
○深い学びにつながる授業改善の推進	①育成を目指す資質・能力（三つの柱）を踏まえた個別の指導計画の作成 ②単元のまとまりを見通した授業づくり ③授業改善につながる各部研究の推進 ④ＩＣＴの効果的活用と校内研修の実施
○安心安全な環境と豊かな心、健やかな体の育成	⑤安全安心な教育環境の徹底と事故等の未然防止 ⑥自己有用感、自己肯定感を高める活動の工夫 ⑦道徳教育の充実 ⑧文化的・体育的活動の充実
○地域とともにある学校づくりの推進	⑨センター的機能の強化 ⑩校内支援体制の充実 ⑪学校運営協議会を核とした地域と連携・協働した取組の推進 ⑫学校ホームページや学校公開等による積極的な情報発信
○重点項目・重点目標達成のための学校体制	⑬コンプライアンス意識の醸成 ⑭専門性の向上 ⑮働き方改革の推進 ⑯鹿特コミュニティ・スクールの推進認知度の向上